

自治協 ニュース

第0306

発行者
八本松住民
自治協議会

R03. 12. 20

コロナ禍での 防災訓練

地震体験車で震度6弱を体感

防災訓練役立った 100%回答

八本松みなみ&八本松南4・5 地区自主防災会合同訓練



起震車で震度6弱の地震を体験される参加者

八本松みなみ地区自主防災会（会長横井國興）と八本松南4・5地区防災会（会長上野崇将）は12月5日（日）に八本松市民グラウンドで消防署西分署、市社会福祉協議会、八本松地域包括支援センター、八本松地域高齢者相談センター、新生園の協力を得て、合同で総合防災訓練を実施した。

今年も新型コロナウイルス感染症防止のため、参加者は、①初期消火、②心肺蘇生とAED、③急応担架作成、④車椅子訓練と高齢者疑似体験、⑤段ボール簡易トイレとベットの作成、⑥起震車による地震体験、⑦防災学習等七つの訓練ゾーンに分けて訓練を行った。

特に、今年度は広島市消防局の協力で起震車による地震を体験するコーナーを設け、震度6弱の揺れを体験していただくことができないほどの揺れに多くの方が「地震の怖さを改めて知った」と感想。

液状化しやすい土地



また、防災学習コーナーでは、この地域は南海トラフ巨大地震で震度6弱が想定されている。特に地震による液状化になりやすい区域にお住まいの方は、直ぐに家具の固定やライフライン停止に備え生

活用水やトイレの対策等を進めてもらいたいと防災マップを示し説明していた。最後に、恒例となっている防災クイズ大会では賞品に採れたての地元野菜等も並んでおり参加者の人気を集めていた。

なお、この日の参加者は関係者を含め104人でそのうち71人の方からアンケートが出され、全ての方が役にたったと回答。特に起震車による地震体験は好評で、ライフライン断絶に備えた防災上の対応や中学校での避難訓練の必要性など今後の地震を想定した訓練の希望が出されていた。



発電機の作動確認をする防災役員

今年度は、新型コロナウイルス感染症防止のため、一般住民の方の参加による訓練ができたため、役員の方にも避難所開設の手順について再確認が行われた。また、集会所に備蓄されている非常食等の数量確認や発電機や無線機等の作動確認も行われた。

避難所開設の手順と 災害への備えをチェック

八本松西地区
自主防災会

災害に備え 八本松地域に どのようなものが備えられているか

八本松小学校 5年生総合的な学習の時間で

児童たちが 体験を交え確認

10月28日(木)、八本松小学校(校長 土肥美由紀)は、5年生(3クラス、103人)の総合的な学習の時間で大雨や地震などの災害に対し八本松地域にどのような資機材が備えられているか八本松地域センターと地域の防災倉庫(八本松みなみ地区自主防災会倉庫 八本松市民グラウンド内)を訪れ、地域の方(八本松自治協および八本松みなみ地区自主防災会役員)から説明を受けた。

八本松地域センターでは、当センターが避難所に指定されていることから、児童らは、展示された避難者の受用品や生活支援用品(簡易ベッド、簡易トイレ、パティション、非常食、自家発電装置等)を確認しながら、①避難所開設の流れ、②避難所資機材の活用方法、③高齢者や障害者の方への配慮、④元気な方は避難所運営を主伝つこと等、避難所での過ごし方について学んだ。

また、八本松市民グラウンドでは当地が八本松南地区の災害時一時避難所で救命救助の拠点となつて、児童たちは実際の体験を通して学んだ。最後に住民自治協議会の土久岡会長は、「大切な命を守るためには、日頃から自然に関心を持ち、災害発生時はできる限り早く安全な場所に避難することが重要です」と説明し、今年6月から4回にわたって行われた地域の防災学習を終了した。今後、児童たちは学習した内容をみんなどまとめ、地域の方にリーフレットやポスター、新聞などでお知らせすることとなり、学習の成果が期待される。



防災用品の説明



防災用品を調べる児童



竹と毛布による簡易担架の作成体験



土嚢作り体験

自治協
協防災会
自主
みなみ

リモートで防災訓練 避難所で体や心の元気を維持 ヨガのエクササイズで

大山ハイツ自主防災会(会長 浅籬 尊)は、11月7日(日)大山ハイツ子ども部会と共催し、地区の子ども達と保護者を対象にリモートでの防災訓練を行った。



簡単なストレッチをオンラインで指導する今川さん

この企画は、ウイズコロナに対応した新たな試みで、訓練参加者がオンラインで今回のホスト局となった西条町寺家の「書庫保育園・子育て支援センター」に「ルーム」(責任者 浅籬幸子さん)に「ホムタフレット」等で繋がり、自宅を「避難所」のエクササイズ」の指導を受けるもの。

指導に当たったのは、当にこのルームでオンライン教室を開いている保育士の今川好恵さん。訓練は、最初に避難所の狭いスペースで健康を維持してゆぐため、体の各部をほぐすことでエコノミークラス症候群の防止や「体や心の元気を」を維持できる簡単なストレッチで分りやすく紹介され、参加した子ども達は今川さんと会話をしながら楽しく取り組んでいた。また、ポーズのエクササイズは、動物に見立てた体形を自身の体で表すもので、心身が疲れた時に効くとのこと。大人の方にはぜひ紹介したい内容であった。



視聴者とのふれあい 浅籬会長(中央)

大山ハイツ防災会
子ども会と共催